

お知らせ

今年度は、9月22日(土)に米子市ふれあいの里で、健康づくり講演会を開催します。今回のテーマは、がんの予防と検診です。鳥取発の検診である胃内視鏡検診について詳しく説明します。  
講演会は無料で、どなたでも参加できます。ご興味のある方は、奮ってご参加ください。

日時：平成30年9月22日(土)  
午後1時30分 開会 (午後3時30分終了予定)  
場所：ふれあいの里1階 大会議室  
講演①「鳥取県民のための、がん予防方法」  
講師 鳥取大学医学部社会医学講座教授 尾崎米厚  
講演②「鳥取発“胃がん死撲滅”に向けた取り組み」  
講師 帝京大学医療技術学部教授 濱島ちさと  
お問い合わせ先：米子市健康対策課 ☎0859-23-5458/5452

毎年、9月は「がん征圧月間」として、各地でがんの予防や治療に関する講演会やイベントが開催されます。

鳥取県は、全国でも胃がんによる死亡が高い地域です。このため、早くから胃内視鏡検診を導入するなど、新たな対策に取り組み、研究にも協力してきました。今回は、がんの予防の重要性やこれまで鳥取県で行ってきたがん対策など、特に胃内視鏡検診の成果を紹介します。

ホームページ開設

研究班のホームページを開設しました。ホームページでは、研究の説明のDVDや研究案内のリーフレットを見ることができます。ご意見・ご質問がありましたらお寄せください。

また、「アイリス・レター」のバックナンバーもPDFファイルで公開予定です。

研究や検診についてのご意見・お問い合わせはメール(未定)でも受け付けています。

個別リスク研究ホームページ  
<http://www.j-sasg.jp/>



キャラクター「アイリスちゃん」紹介

アイリス(あやめ)の花言葉は「よい便り」「メッセージ」です。  
「アイリスちゃん」は、研究協力をお願いしている方々に、健康に役立つ情報をお届けします。

個別リスク検診研究  
ニュースレター



「アイリスレター」は、個別リスクの内視鏡検診研究にご協力いただいた方にお送りしているニュースレターです。

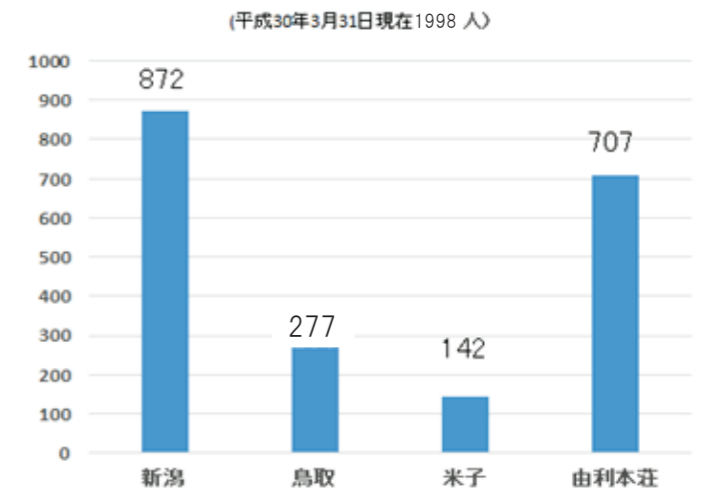
見出し

- \*平成29年度研究協力者報告 .....1
- \*研究検診では、2年に1回の受診をお願いします .....2
- \*新潟市胃内視鏡検診の紹介 .....3
- \*お知らせ .....4

平成29年度研究協力者報告

平成29年4月から始まったAMED研究には、新潟市をはじめ、鳥取県鳥取市、米子市、秋田県由利本荘市の4市がエントリーしました。1年間の総リクルート数は1,998人、鳥取県の研究協力者は鳥取市277人、米子市142人でした。  
研究協力者の総数の最終予定数は15,000人であることから、平成30年度も引き続き、新潟市では研究協力者のリクルートを行います。

図 平成29年度研究参加者数の比較



発行日 平成30年9月1日  
発行元 胃内視鏡検診研究事務局  
URL <http://www.j-sasg.jp/>

本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」(課題番号:16817317)研究班(研究代表者 深尾彰)の一部として行っています。

研究検診では、2年に1回の受診をお願いします

現在、鳥取県内の市町村では1年に1回の胃内視鏡検診を勧めています。しかし、国の方針では、胃内視鏡検診は2年に1回の受診となっています。

研究検診では、国の方針に従い、2年に1回の検診をベースとした研究を行っています。もし、毎年検診を希望する方がおられましたら、毎年受診していただくことは構いません。しかし、研究班からご案内する2年に1回の検診は忘れずに受けてください。

胃内視鏡検診は2年に1回で大丈夫？

現在、鳥取県の胃内視鏡検診は40歳以上であれば、毎年受診することが可能です。しかし、国の方針では、胃内視鏡検診は50歳以上は2年に1回の受診となっています。

これまで、毎年受けられたはずの胃内視鏡検診が2年に1回になることで、不安に思われる方もいるかもしれません。胃内視鏡検診は、これまで行われてきたレントゲン検診に比べ、精度も高く、より早期のがんを見つけることが可能です。しかし、早期がんのなかには、命を落とす原因にはならない、非常にゆっくり育つがんも含まれています。これは、「過剰診断」といわれるものです。こうしたがんをどんどん見つけることが、命を救うことにはならず、むしろ余計な検査や治療を増やすことになり、その結果、余計なお金がかかるばかりではなく、却って心配の種を増やすことにもなります。

本当に必要な人が、検診を受けることで、個人の利益が最大化し理想的な受診になります。

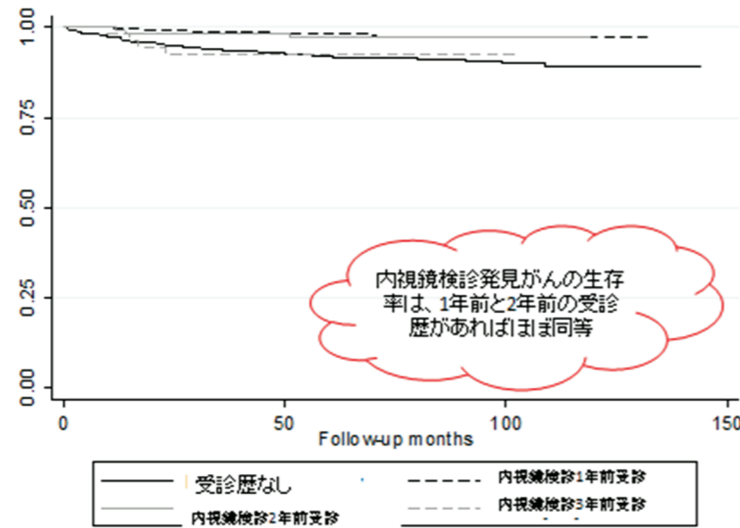
年間の受診や受診歴がない場合は、生存率は低くなりました。

この結果、胃内視鏡検診の検診間隔を少なくとも1年から2年までに延ばすことができるということになります。

2年前受診の発見がんの生存率は、1年前受診と同じ！

新潟市の胃内視鏡検診で発見された胃がんの過去の受診歴を調べてみました。すると、今まで一度も検診を受診していない人では、進行がんの割合が大きくなりました。さらに、1年前、2年前、3年前に胃内視鏡検診の受診歴があるかどうかを調べると、3年前の受診では進行がんの割合は高くなりますが、1年前と2年前に受診歴がある場合の進行がんの割合は、ほとんど変わらないことがわかりました。さらに、生存率を比べてみると、1年前と2年前の受診歴がある場合の発見がんではほぼ同等でした。しかし、3

図 受診歴別胃内視鏡発見がんの生存率の比較



新潟市胃内視鏡検診の紹介

AMED 研究では、新潟市、鳥取市、米子市(鳥取県)、由利本荘市(秋田県)、金沢市(石川県)、前橋市(群馬県)にご協力頂いています。

新潟市で6月に開催された第25回日本消化器がん検診学会で紹介された新潟市の胃内視鏡検診について、紹介します。

新潟市は、全国に先駆け、平成15年から胃内視鏡検診を開始しました。当時は、厚生労働省は胃がん検診としてX線検診のみを推奨していましたが、医師会の先生方の熱意もあり、導入が実現しました。

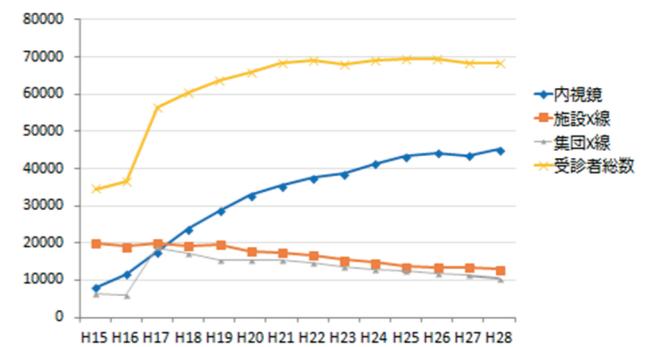
胃内視鏡検診は、診療所をはじめとする医療機関で行われています。対象年齢は、40歳、45歳、50歳以上です。これまでは毎年検診を行ってききましたが、平成31年度からは2年に1度の隔年検診となります。

新潟市では、導入以前からX線検診を行ってききましたので、現在でも、市民はX線と内視鏡のいずれかを選択することが可能です。新潟市では、X線と合わせて約7万人が胃がん検診を受診していますが、このうち65%(約4万5千人)が内視鏡検診を受けています。平成27年度の発見胃がん数は378人、このうち80%以上が早期がんです。胃がん発見率は0.8%と高水準を維持しています。

新潟市の胃内視鏡検診のアピールポイントは、質の高いダブルチェックシステムと世界水準の研究です。医療機関で検査された内視鏡の画像はすべて専門医がチェックすることにより見落としを減らしています。また、新潟市の検診データを使った研究は、国際的な学術誌にも多く発表され、特に韓国や台湾などアジアの国々から注目されています。



胃がん検診受診数の推移



胃内視鏡検診によるがん発見率

